

# お得すぎて大ヒットのランチパスポートが成立する秘密 食事3割引き&3回で元取れる

文=中沢敦ノバルディア代表取締役

【この記事のキーワード】 クーポン, ホットペッパー, ランチパスポート

G+1 1 BI 2 Pocket 15 ツイート いいね! 32

みなさんは、昼時にご自分のオフィスで文庫本サイズより少し大きめな雑誌を片手に歩いている人をご覧になったことありませんか？

昨年から『ランチパスポート』（出版共同流通）が急速に流行しています。これは、通常700円以上するランチが500円で味わえるなど、地域ごとに発行されている“ランチ割引雑誌”です。1000円で雑誌

を購入しても3カ月以内に3～5店利用すれば元がとれます。掲載されている店でランチを食べ終わった際に同誌を提示すると、値引きが受けられます。11月現在、発行決定済のものを含めると、日本全国43都道府県以上80エリア以上で発売されています。



ランチパスポート（「Amazon HP」より）

このランチ割引雑誌のビジネスモデルを整理すると、次のようになります。

- (1) 発行社が掲載施設約80-100店舗を広告費無料で掲載
- (2) 広告費無料の代わりに、店舗側はメニューを指定割引金額にて誌面に提供
- (3) 利用者は3カ月間、1店舗3回まで利用できる

雑誌購入者の利益で収益を成り立たせる新たなるモデルです。しかも、エリアフランチャイズ制により全国ネットワークを完成させました。既存のフリーペーパーは広告掲載費にクーポン割引費用も必要ということで、特に飲食店の個店オーナーに支持されているようです。



『家族で超トクパスポートなび』

## アメリカで成功している有料クーポンブック

このようなビジネスモデルはもともとオーストラリア、アメリカ、カナダなど地域ごとに年1回発行されている

「Entertainment-book（エンターテインメントブック）」という有料クーポンブックがベースとなっています。デジタル版もあり値段は国・地域によって異なりますが、一冊約25～65ドルで、サービスは1年間有効です。

その歴史は古く、1962年から発刊されています。内容は高級レストランおひとり様無料や大手ホテルチェーンの大幅な割引など150以上の有名店、6万以上のクーポンが掲載されており、マクドナルド、ドミノ・ピザ、ローカルのレストランから、ユナイテッドエアラインやターゲット、レンタカー、ホリデイ・インなどのクーポンが掲載されています。

書店での取り扱いはなく、エンターテインメントブックが認めた学校、病院、コミュニティー/チャリティ施設、ボーイ・ガールスカウト、スポーツクラブなどで販売され、売り上げの一部はそのままチャリティなどに寄付され同雑誌はチャリティの資金調達者としての立場も担っているようです。クーポン文化先進国アメリカならではの歴史があるサービスです。



**Paldia**  
Personal Media Communication

**パルディア流  
売れるマーケティング論** 代表 中沢敦

[www.paldia.co.jp](http://www.paldia.co.jp)

「今すぐ売上が伸びる！店頭プロモーション術」 「なぜ小さなコスメ店が大型ドラッグストアに逆襲できたのか」

## 出版不況の救世主

日本ではなぜ、ランチパスポートのような有料割引クーポンがこれほど人気が出たのかというと、前述の広告掲載費無料とともに、販売されている書店の課題をクリアにした点が挙げられます。

現在書店はネットの普及により出版不況が叫ばれています。そんななか、エリア性を押し出して有料クーポン雑誌として成功しています。人々は自分の住まいの生活圏、もしくは職場や学校など基本的にはよく飲食を利用するエリアが決まっています。自分の行動範囲のなかで「どうせ行くなら、トクをしたい」という心理が働くのは当然です。さらに、「ホットペッパー」などのフリーペーパーや「ぐるなび」のネットクーポンが消費者に根付き、クーポンを恥ずかしがらず提示できるようになってきたためと思われる。

そして何よりも、たとえば東京・新橋の書店で「新橋」という具体的なエリアが記載された雑誌が数多く売れる可能性は高いため、一店舗当たり100～500冊ほど発注し売場で目立つように陳列され、顧客のアイキャッチが高まり購買率も向上することが見込めます。ランチパスポートを購入した人が友人とランチ行く際、ひとり一冊必要なため友人や同僚も購入するという好循環を生み出したのです。

ランチパスポート以外に、スイーツやスナックなどさまざまなジャンルの有料パスポート雑誌が発刊されています。当社も家族で子供とのレジャー生活がお得に楽しめる『家族で超トクパスポートなび』の第3号を11月20日に発売しました。同誌は前述したエンターテインメントブックのモデルと近く、レジャー・スキー施設を中心に温泉宿泊宿の宿泊費半額割引やスーパー銭湯の割引、飲食チェーンの割引があり、他社ではありえない割引会員価格で提供しています。特に小学校以下のお子様がいるご家族は1回の利用で元が取れますので、[ぜひネット上で立ち読みしてみてください](#)。

(文 = 中沢敦 / パルディア代表取締役)